

2024.4.2

田村まみ参議院議員、厚生労働委員会で質疑！

## 医薬品の流通改善と薬価制度・薬価改定



田村まみ議員、武見厚生労働大臣（右）

<https://youtu.be/Wp2UBwYvH-U>

田村まみ参議院議員、発言抜粋

### 医薬品の流通改善と薬価制度、薬価改定の在り方について



#### まみに聴かせてキャンペーンに寄せられた声

「毎年薬価改定を廃止してほしい。薬価を下げすぎたせいで品薄が続いています。」

「薬価が安く不採算となった医薬品の供給が不安定になり、医薬品流通に携わる全ての労働者が疲弊しています。」

「毎年の薬価改定により、医療業界の衰退に繋がっています。」

「供給不安の解決をはじめ、医薬品産業で働く組合員が安心して働ける環境を整備してほしい。」

- 「薬価制度の抜本改革」では、毎年薬価調査・毎年改定の実施にあたり、その対象となる品目に関し、安定的な医薬品流通が確保されるよう流通改善の取り組みをすることが示されています。しかし、流通改善は未だ途上にあり、流通改善という前提条件を無視した薬価の中間年改定は不適切であることを指摘しました。
- 医薬品が適切な実勢価格となっていない状況下での中間年改定について、政府は国民負担の軽減のためと説明するが、薬が届かないこと自体が国民負担であり、中間年改定の即刻廃止を訴えました。
- 後発医薬品に係る産業構造の見直しが議論されてますが、医薬品卸など周辺産業への影響についても認識してもらい、対応策を示すことを求めました。武見厚生労働大臣からも、卸当事者の声を聞き留意していくと前向きな答弁がありました。